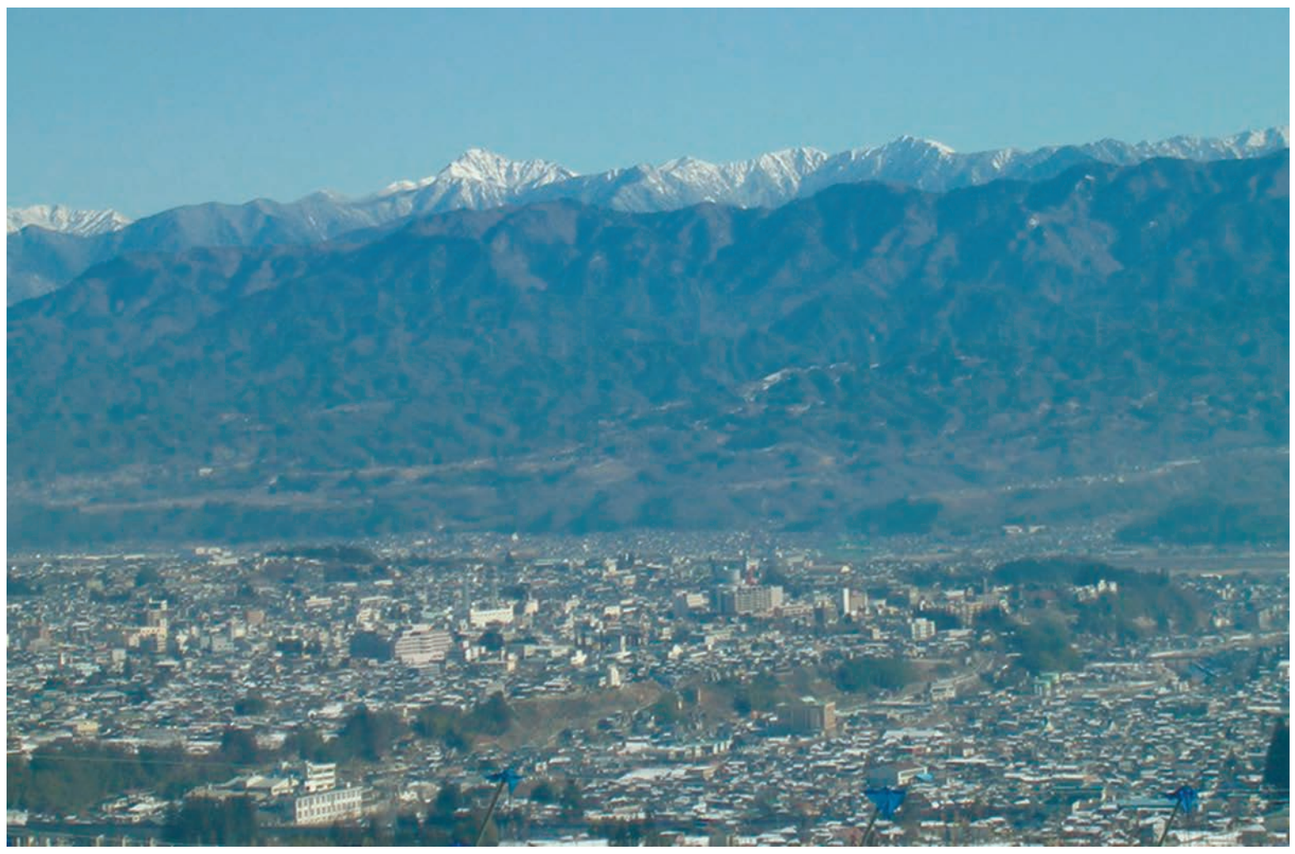
週刊 観光経済新聞
宿泊・旅行業・運輸・自治体（観光全般）

第2部

中学校教育旅行特集

DEEP JAPAN！ ようこそ感動体験 南信州へ



日本最大の谷地形　伊那谷から南アルプスを望む

長野県南信州は、地域に暮らす人々がインストラクターとなって、農家民泊を中心に農業、自然、地域文化などの体験プログラムを提供している。平成8年から受け入れを開始し、体験教育旅行の豊富な受け入れノウハウを持つ。その大きな特徴は、中学校などの生徒たちを生産の現場、生活の中へ受け入れ、これまで培ってきた技術や経験をそのまま体験させる「本物の体験」であることだ。田舎を知らない生徒にとって、ここ南信州での学びは、日本そのものを深く知ることにもつながる。

南信州受け入れエリア

農家民泊の受け入れ450軒
「本物の体験」を提供

南信州の受け入れエリアは、下伊那14市町村（飯田市、松川町、高森町、阿南町、大鹿村、豊丘村、喬木村、泰阜村、下條村、阿智村、平谷村、根羽村、売木村、天龍村）と上伊那中川村を加えた15市町村。延べ450軒の農家が簡易宿所の許可を得て農家民泊の受け入れを実施する。農家には地産地消度の高い農家レストランも存在している。

受け入れ農家は単一作目ではなく、果樹、稲作、野菜の複合経営が大半。果樹ではりんご、梨、桃、ぶどう、干し柿など種類が多く、野菜は葉物、根菜、夏野菜などの少量多品目による営農の割合が高い。これは中山間地特有の地形による側面もある。

農家の人たちの体験や交流を通じて、地域での生き方を知り、想像していた農業や田舎の暮らしとの違いを感じる。さらに発表会などで各々の経験を共有することで、対話的な学びから深い学びへとつながる道筋が見えてくる。

自然も豊かで、南アルプスの3千㍍の高地から天竜川の川面350㍍まで、多様な動植物を見ることができる。日本の原風景が広がる遠山郷、下伊那南部・西部では美しい星空を観察できる。

体験プログラムは188種類を数え、中でも天竜川でのラフティングは国内最大級の1回に300人の実施が可能だ。フォレストアドベンチャー、乗馬、渓流釣り、マウンテンバイクなどの本格的なアウトドアスポーツ体験、プロの職人に教わる陶芸や草木染めといった工芸体験、地域の食文化に触れるそば打ちや五平餅作りなどの体験プログラムもそろえている。

「満蒙開拓平和記念館」では、語り部講話と展示見学による平和学習も行える。

温泉旅館も数多くあるが、「大平宿」では旧民家でいろりとかまどを使った昔ながらの生活を体験できる。

グリーン・ツーリズム、農泊、体験型観光の先進地としての高い国内評価を得ている。「第1回オーライ！ニッポン大賞最優秀賞2004」のほか、「第1回エコツーリズム大賞優秀賞2005」「クールジャパンアワード2017」を受賞している。

広域でも、おおむね1時間程度の移動時間に収まり、総合病院も各地区にある。各市町村には行政担当者やコーディネーターもいるため安心して利用できる。

南信州までは首都圏や関西圏からバスで3、4時間前後、名古屋からは1時間半程度。活動時間の確保と旅行費用の低減化、体調管理面やリスクマネジメント面でも優位性がある。

南信州での教育旅行に関しては、南信州観光公社が窓口となる。体験、交流、見学、宿泊、食事、物産、土産、観光、温泉、交通などすべて一括で対応してくれるので、安心で便利だ。

いろりの里　大平宿　SDGs学習の最適地

梨、りんごの出荷作業

乗馬（馬場での基礎レッスンの後、外乗へ出掛ける）

入村式（農泊）

新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

今、学校教育現場では学習指導要領の目指す「主体的・対話的で深い学び」とSDGsを結び付けたプログラムが求められている。これに呼応し南信州観光公社は、地域資源を活用した能動的な学習で深い知識と応用力を身に付ける各種のプログラムを用意し、高い付加価値を目指そうとしている。

集落消滅の危機をどう救うか。地方の人口減少問題に切り込むプログラム

①事前学習　人口減少の理由について、家庭で家族（両親、祖父母など）から取材する。生徒が能動的に情報収集することに意味がある。

②課題発見　人口減少によって生じることを探る。経済規模の縮小、商店の閉店による生活維持困難、交通問題、医療・介護問題の発生、農林業の担い手の不足、自然環境の荒廃などが見つけられる。

③実態の把握と課題確認　農業体験、調査学習などを実施。農家泊によるインタビューや地域おこし団体、地域おこし協力隊との意見交換や交流を行う。

④問題解決学習　この課題をどう解決するかを導く。地方の新たな取り組みとしては、移住定住促進策、若者の意識の変化（田園回帰志向）がキーワードとなる。

⑤事後学習と振り返り　教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどを行う。

一連の学習により、地方には違う環境、違う感性、違う仕事があることを知り、自らの進路やどう生きていくのかを考えることにつながる。

地方から食の安全安心を考えるプログラム（JA連携食育プログラム）

①事前学習　農業生産と農産物の流通経路、価格決定等について学ぶ。

②現地で、農産物の生産方法について知る。消費者に提供されるまでの流通や、価格決定の仕組みなどを農家泊や農業体験を通じて学習する。

③農家やJA流通関係者などとの交流や意見交換を図る。食の実態、自分たちの食べているものがどこから来ているのか、輸入農水産物の多さと課題（環境汚染、乱獲による生態系への悪影響、生産地の貧富拡大、輸送にかかる費用と二酸化炭素排出など）を知る。

④旬の食材を使う地産地消料理を味わい、自然の恵みと地域固有料理のおいしさ（食文化）を知る。

⑤振り返り　自らの食生活の見直しや食糧生産の重要性を学ぶ。

持続可能性の失われた山村集落（集団離村）からSDGsを考えるプログラム

①事前学習　伊那街道と中山道を結ぶ旧大平街道の宿場大平宿の歴史と民家の構造、そして、林業、薪炭生産とのかかわりを学ぶ。

②大平宿では、古民家の生活方法について、囲炉裏、竈、薪風呂の使用方法について知る。旧大平宿古民家宿泊による火を使う原生活体験により、自然と人間の距離の近い昔の生活に学ぶ。

③大平宿の元居住者から歴史や当時の生活、集団離村の理由について聞く。

間伐や枝打ちなどの林業体験により、山林の保全管理の実態や林業従事者の減少などによる管理不全の状況や、間伐のための森林を観る視点からの森林管理について知る。伐採は危険が伴い、決まりの遵守やチームワーク、声かけが必須であることを学ぶ。

④森林の荒廃を防ぎ、森林の恵みを持続可能にする方法について考える。

⑤振り返り　自然と人間の関係、森林の持続可能性から環境問題を学ぶ。

SDGs南信州ツーリズムを進める
日本版DMO（地域連携DMO）
株式会社 南信州観光公社
〒395－0152長野県飯田市育良町1－2－1りんごの里内
TEL0265（28）1747　FAX0265（28）1748
URL https://www.mstb.jp/

天竜川でのラフティング川下り

第16回全国
ほんもの
体験フォーラム in 南信州
2020年3月 20(金) 21(土) 22(日)
～DEEP JAPAN!! ようこそ感動体験南信州へ～
【主　催】第16回全国ほんもの体験フォーラム in 南信州実行委員会
【共　催】全国ほんもの体験ネットワーク
【お問い合わせ】第16回全国ほんもの体験フォーラム in 南信州実行委員会事務局
株式会社南信州観光公社
☎0265-28-1747　Mail：oyorite@mstb.jp

■プログラム
3月20日（金）
○エクスカーション（体験ツアー）
3月21日（土）
○全体フォーラム
（事例発表・公開パネルディスカッション）
会場：長野県飯田文化会館
○情報交換会
3月22日（日）
○課題別研究分科会
会場：南信州各地
○エクスカーション（体験ツアー）